

# 地域におけるスポーツ活動の活性化について

## 【現 状】

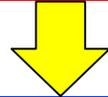
生徒 (中学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部活動加入率 (R3)               <ul style="list-style-type: none"> <li>男 72.8% (8,180人)</li> <li>女 51.8% (5,567人)</li> </ul> </li> <li>・複数校合同チームの大会参加状況 (R3)               <ul style="list-style-type: none"> <li>延べ108チーム</li> </ul> </li> <li>※県内の中学校は全111校、部活動数は1,071</li> </ul> <p>・運動部活動加入率は高い数値を維持しているが、単独でチームを組めない部活動が増加している</p> <p>・希望する部活動が学校にない</p> <p>・近隣に合同チームを組める学校がない</p> <p>・近隣に実施したい種目のクラブ等がない など</p>
教員 (中学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性を有する運動部活動顧問の割合 (R3)               <ul style="list-style-type: none"> <li>44.6% (598人)</li> </ul> </li> <li>・複数顧問制の導入 (R3) 61.0% (653部活動)</li> <li>・外部指導者 (※1) の活用率 (R3)               <ul style="list-style-type: none"> <li>40.5% (431部活動)</li> </ul> </li> <li>・部活動指導員 (※2) 配置数 (R3) 37人</li> <li>・多忙化の原因 (R1) ※複数回答可               <ul style="list-style-type: none"> <li>1位 部活動 (18.2%)</li> <li>2位 調査・報告 (18.0%)</li> <li>3位 分掌事務 (13.9%)</li> </ul> </li> </ul> <p>・外部指導者や部活動指導員を配置するなどの対応を講じているが、全ての部活動に配置はできておらず、専門性を有しない顧問が一人で苦しんでいる現状もある。</p>

※1 顧問をサポートし、技術指導を行う

※2 会計年度任用職員として、顧問の代わりに指導、大会引率等を行う

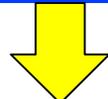
## 【県内関係機関との協議スケジュール】

【国】中学校の運動部活動の地域移行に関する提言 (情報提供)  
(令和4年6月6日)



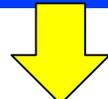
【県】実務担当者による連絡会  
(9月上旬予定・以降定期的に開催)

構成員：県教委、県スポーツ振興課、県スポーツ協会、  
県中体連の実務担当者

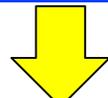


【県】有識者等による連絡協議会 (仮称)  
(12月～1月開催予定)

構成員：有識者及び県教委、県スポーツ振興課、県スポーツ協会、  
県中体連、民間スポーツクラブ等の代表者

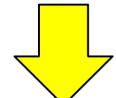


【県】市町村への説明・助言等

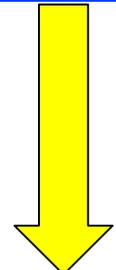


【市町村】各地域の実情に応じた主体的な取組  
【県】市町村へのフォローアップ

拠点地域の  
休日部活動視察  
(7月～10月)



拠点地域による  
成果報告会  
(3月予定)



【地域部活動実践研究の概要】

	拠点地域・拠点校				団体・指導者						地域スポーツ活動の状況	
	自治体名	学校		地域移行に取り組む部活動		地域スポーツ活動の運営団体		地域スポーツ活動の指導者				
		数	名称	数	種目名	団体名	分類	総数	属性	確保の経緯・方策	実施時期	活動場所
令和3年度 (実績)	能代市	2	ニツ井中学校 能代南中学校	5	・卓球 ・バスケットボール ・ソフトテニス ・柔道 ・陸上	能代市教育委員会		5	地域指導者	・外部指導者として活用 ・学校長の推薦	7月～	各中学校グラウンド・ 体育館
	羽後町	1	羽後中学校	3	・ハンドボール ・柔道 ・陸上	羽後町体育協会	公益財団法人秋田県 スポーツ協会加盟の 地域団体	6	地域指導者	競技団体からの紹介	4月～	羽後中学校体育館・ 格技場他
令和4年度 (予定)	大館市	8	市内全中学校	8	・陸上競技 ・卓球 ・柔道 ・剣道 ・バスケットボール	大館市体育協会 各学校保護者会	・地域スポーツクラブ (競技別クラブチー ム) ・保護者会	8	地域指導者	・総合型クラブから派遣 ・競技団体から紹介 ・部活動顧問の人脈	7月下旬～	各中学校グラウンド・ 体育館
	羽後町	1	羽後中学校	3	・ハンドボール ・柔道 ・男子バスケットボール	羽後町体育協会	公益財団法人秋田県 スポーツ協会加盟の 地域団体	5	地域指導者	競技団体からの紹介	4月～	羽後中学校体育館・ 格技場他

【令和3年度の実践研究結果】

○成果

- ・スポーツ少年団、地域スポーツクラブの活動状況や中学生の受入状況等現状把握
- ・地域移行した場合の運営体制やメリットの把握
- ・専門的な技術指導による競技力の向上
- ・教職員の時間的、心理的負担軽減
- ・部活動を地域移行する必要性の周知

○課題

- ・運営団体や地域における指導者等の人材、活動経費の確保
- ・(平日の)学校部活動と(休日の)地域スポーツ活動の連携

## ＜運動部活動の地域移行を進める上での課題及び対応策＞

### 【課題1】地域におけるスポーツ指導者の確保

- 対応策の例
- ・学校内外の組織と連携した指導者（候補者）の人材バンク整備
  - ・教員の兼職兼業制度の整備・活用
  - ・指導者の育成・資質向上を図る研修制度の構築
  - ・指導者への報酬等に対する財政支援

### 【課題2】移行先となる受け皿団体の整備・支援体制

- 対応策の例
- ・スポーツクラブ等の設立・施設利用等に対する財政支援

### 【課題3】家計の負担増加

- 対応策の例
- ・経済的に困窮する家庭に対する活動経費等の費用補助

# 運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要

※公立中学校等における運動部活動を対象

運動部活動の  
意義と課題

意義

- 生徒のスポーツに親しむ機会を確保。自主的・主体的な参加による活動を通じ、責任感・連帯感を涵養、自主性の育成にも寄与。
- 人間関係の構築、自己肯定感の向上、問題行動の抑制。信頼感・一体感の醸成。

課題

- 近年、特に**持続可能性**という面で厳しさを増しており、中学校生徒数の減少が加速化するなど**深刻な少子化が進行**。〈生徒数：昭和61年589万人→令和3年296万人に半減、出生数：令和3年84万人〉
- 競技経験のない教師が指導せざるを得なかったり、休日も含めた運動部活動の指導が求められたりするなど、教師にとって大きな業務負担**。〈土日の部活動指導：平成18年度1時間6分→平成28年度2時間9分に倍増〉
- 地域では、**スポーツ団体や指導者等と学校との連携・協働が十分ではない**。

これまでの  
対応

- 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（平成30年3月）：学校と地域が協働・融合した形での地域におけるスポーツ環境整備を進める
- 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について（令和2年9月）：令和5年度以降、**休日の部活動の段階的な地域移行**を図る
- 中教審や国会等：「部活動を学校単位から**地域単位の取組**とする」旨指摘

目指す

- 少子化の中でも、将来にわたり我が国の子供たちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保。このことは、学校の働き方改革を推進し、**学校教育の質も向上**。
- スポーツは、**自発的な参画**を通して「楽しさ」「喜び」を感じることに本質。自己実現、活力ある社会と絆の強い社会創り。**部活動の意義の継承・発展、新しい価値の創出**。
- 地域の持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備し、子供たちの多様な体験機会を確保**。（スポーツ団体等の組織化、指導者や施設の確保、複数種目等の活動も提供）

改革の  
方向性

- まずは、**休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本とする**
- 目標時期：令和5年度の開始から3年後の令和7年度末を目途**  
（合意形成や条件整備等のため更に時間を要する場合にも、地域の実情等に応じ可能な限り早期の実現を目指す）
- 平日の運動部活動の地域移行は、できるところから取り組むことが考えられ、地域の実情に応じた**休日の地域移行の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進**
- 地域における**スポーツ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等**にも着実に取り組む
- 地域の**スポーツ団体等と学校との連携・協働の推進**  
※改革を推進するための「**選択肢**」を示し、「**複数の道筋**」があることや、「**多様な方法**」があることを強く意識



課題への  
対応

<b>新たなスポーツ環境</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の実情に応じ、多様なスポーツ団体等が実施主体</li> <li>・特定種目だけでなく、生徒の状況に適した機会を確保</li> </ul>	<b>大会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会主催者に対し、地域のスポーツ団体等の参加も認めるよう要請</li> <li>・地域のスポーツ団体等も参加できる大会に対して支援</li> </ul>
<b>スポーツ団体等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的に取り組んでいる事例をまとめ提供</li> <li>・必要な予算の確保やto to助成を含む多様な財源確保の検討</li> </ul>	<b>会費や保険</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困窮する家庭へのスポーツに係る費用の支援方策の検討</li> <li>・スポーツ安全保険が、災害共済給付と同程度の補償となるよう要請</li> </ul>
<b>スポーツ指導者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者資格の取得や研修の実施の促進</li> <li>・部活動指導員の活用、教師等の兼職兼業、人材バンク</li> <li>・指導者の確保のための支援方策の検討</li> </ul>	<b>学習指導要領等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の課題や留意事項等について通知、学習指導要領解説の見直し、次期改訂時の見直しに向けた検討</li> <li>・部活動等から伺える個性や意欲・能力を入試全体を通じ多面的に評価</li> <li>・教師の採用で部活動指導の能力等を過度に評価していれば、見直す</li> </ul>
<b>スポーツ施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校体育施設活用に係る協議会の設置、ルールの方策</li> <li>・スポーツ団体等に管理を委託</li> </ul>		

※国立の中学校等でも、学校等の実情に応じて積極的に取り組むことが望ましい。  
 ※公立及び国立の高等学校等については、義務教育を修了し進路選択した高校生等が自らの意思で選択している実態等があるが、各学校の実情に応じて改善に取り組むことが望ましい。  
 ※私立学校でも、学校等の実情に応じて適切な指導体制の構築に取り組むことが望ましい。